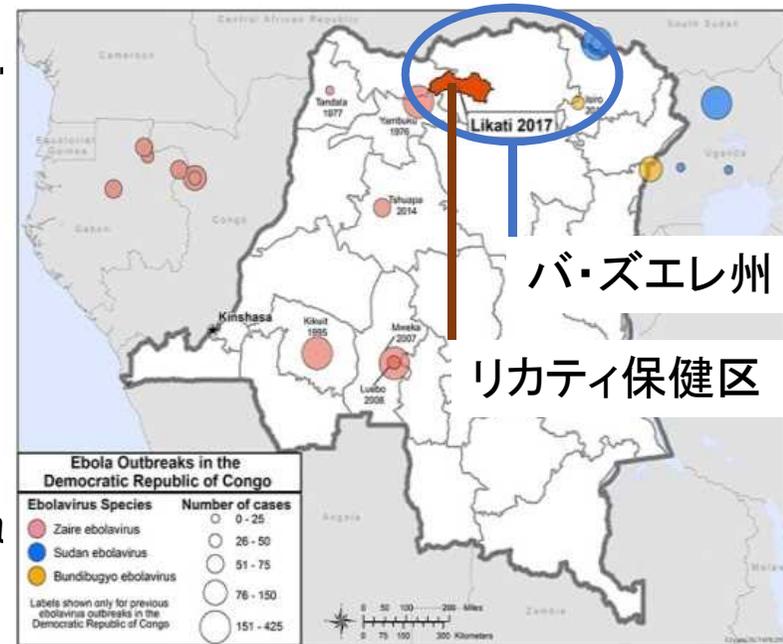


【概要】

- ・2017年4月22日以降、コンゴ民主共和国(旧ザイール)の北東部のバズエレ州のリカティ保健区でエボラ出血熱の患者が発生し、世界保健機関(WHO)なども入り対策が行われた。
- ・最後の確定例については、5月21日にPCR陰性が確認されている。
→42日間(潜伏期間21日間の2倍)の観察期間を経て、7月2日にWHO及び保健当局によって終息が宣言された。宣言後、90日間の強化サーベイランスを実施。
- ・接触者に対する開発中のワクチン(rVSV-ZEBOV)の接種についてコンゴ民主共和国政府、国境なき医師団、WHOを中心に準備が進められたが、準備完了後、患者発生がなく、実施されなかった。



< 今回の症例数 >		
症例: 8名	死亡: 4名	接触者登録: 583名
・確定 5名 (確定例最終発症日5月11日)	・確定 1名	・健康監視(21日)完了者: 357名
・疑似症 3名	・疑似症 3名	・除外: 226名 (接触元がエボラ出血熱ではなかった)

【厚生労働省の対応】

- ・5月13日、厚生労働省としては、一般国民に対し、ウェブサイト等を通して注意喚起を行うとともに以下の内容の事務連絡を発出した。
 - > 検疫所より海外渡航者への注意喚起を行うこと
 - > 医療機関等に対し、当該地域からの帰国者の診察の際にはエボラ出血熱を念頭に置くこと
 - > 国土交通省より、空港会社、航空会社、日本旅行業協会と全国旅行業協会に参加している事業者を通して海外渡航者に対して注意喚起を行うように依頼

2017年 コンゴ民主共和国におけるエボラ出血熱

- ・4月22日、北部のバ・ズエレ州で39歳男性が発症。病院搬送時に死亡。
- ・4月24日、上記患者を搬送した者1人(26日死亡)、他1人が同様の症状を発症。
以後、他の関係者も同様の症状を発症。
- ・5月11日、5人の血液検体を首都キンシャサで検査し、2検体からエボラウイルスを検出。保健相からWHOに報告。
- ・5月12日、WHOがエボラ出血熱患者の発生を公表。
- ・5月13日、厚生労働省が国内に注意喚起の通知を発出。
- ・5月17日、INRB(Institut National de Recherche Biomédicale)の移動検査室が現地に到着。
- ・5月20日、国境なき医師団(MSF)と国際医療活動連盟(ALIMA)がエボラ治療センター開設。
- ・5月26日、コンゴ民主共和国とJICAが無償資金贈与契約を締結。
- ・6月1日、疑い例のうち2名が、血清学的検査でエボラ出血熱であったと判明。
- ・6月2日、すべての接触者調査が終了。エボラ治療センターの入院患者が全員退院。
- ・6月5日、疑い例のうち1名が、血清学的検査でエボラ出血熱であったと判明。
- ・7月2日、WHO及び保健当局による終息宣言。

2014年～2016年 エボラ出血熱の患者数・死亡者数

エボラ出血熱の発生状況

WHO報告(2016年6月10日)、CDC報告(2016年4月13日)

西アフリカ3カ国	患者数	死亡者数
ギニア	3,814	2,544
リベリア	10,678	4,810
シエラレオネ	14,124	3,956
西アフリカ3カ国以外で終息が宣言された国／限定的な感染が確認された国	患者数	死亡者数
マリ	8	6
ナイジェリア	20	8
セネガル	1	0
スペイン	1	0
アメリカ	4	1
イギリス	1	0
イタリア	1	0
合計	28,652	11,325



※西アフリカの流行とは別のものである(流行株が異なる)。



※感染終息(2014年8月にPHEIC宣言)
 2014年10月17日にセネガル
 10月19日にナイジェリア
 11月21日にコンゴ民主共和国
 12月2日にスペイン
 2015年1月18日にマリ
 3月10日にイギリス
 7月20日にイタリア
 12月29日にギニア(※)
 2016年1月14日にリベリア(※)
 3月17日にシエラレオネ
 3月29日PHEICを解除

※ギニアでは2016年6月1日に、
 リベリアでは2016年6月9日に
 再度終息が宣言された。